

ラボ紹介

今月号では、西村秀和教授が代表を務める2つのラボを紹介します。



西村 秀和 教授

専門分野:モビリティ(移動すること)に関する安全制御システムマネジメント、プロダクトやサービスのモデル駆動型システム開発。

モデル駆動型システム開発ラボ

(Model-Driven Systems Development Lab、通称MDSLラボ)

代表

西村 秀和 教授

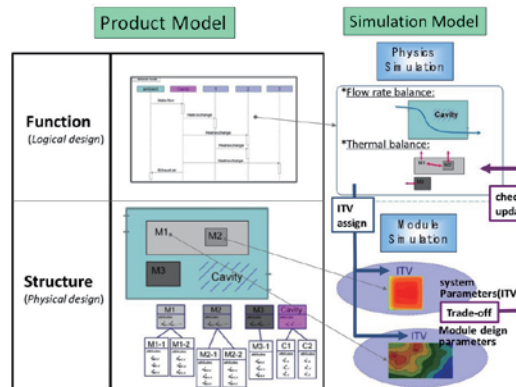
メンバー

成川 輝真特任助教、白坂成功准教授、ほか

モデル駆動型システム開発ラボでは、モデルベースでシステムズエンジニアリングプロセスを推進するためのツールとして開発されたSysML (Systems Modeling Language)のほかDSM (Design Structure Matrix)、MDM (Multi Domain Matrix)などを用いた具体性のある研究を実施しています。ハードウェア、ソフトウェア、人や設備などから構成される複雑なシステム(プロダクトやサービス)の開発に、SysMLを中心として適用する研究を行っています。

最近の成果として、システム内部の空間、キャビティを一つのモジュールとしてみなすことにより、他のモジュール間のインタフェースを整理し、設計の見通しを良くすることができました。そして、国際的に分散する開発チームは、キャビティでやりとりされる各モジュール間の物理パラメータを、SysMLで統合されたプラットフォームで共有でき、コンカレントエンジニアリングを促進することができます。

(後期博士課程 関 研一君(ソニー))



また、このラボでは、現在、年内の出版を目指してA Practical Guide to SysML (ELSEVIER) を翻訳しています。モデルベースシステムズエンジニアリングの普及により、無駄な手戻りを一掃し、エンジニア達の余暇を増やし、そして、さらにイノベティブなシステムを生み出す良い循環を創りたいと考えています。MDSLラボには外部からさまざまな業界の方々かSDM研究所の研究員として参加されています。

ユニバーサルデザインラボ

(Universal Design Lab、通称UDラボ)

代表

西村 秀和 教授

メンバー

中野泰志(経済学部教授)、前野隆司教授、ほか



ユニバーサルデザインラボでは、Human Centered Designのコンセプトのもとで、人々が移動し活動するバリアフリー空間のあり方を研究しています。アクセシビリティの検討、体験を通じた社会要求の分析を行い、あるべき姿を描き、そこに必要となるシステム(モノ/サービス)を明確

にデザインします。

現在は主として、「人が移動すること」という意味での“モビリティ”の中で、Personal Mobilityの一つである電動車いすとエレベータ、エスカレータ等の昇降機について研究を進めています。日吉キャンパス内の大学施設や日吉駅などの周辺のバリアフリーとユニバーサルデザインを障がい者のさまざまな方々の意見を聞きながら検証・評価しています。

障がい者のみならず健常者も含め、誰でも安心して利用できる安全な“モビリティ”をデザインするため、UDラボは、モビリティシステムマネジメントセンターの活動とも密接に関係しています。日本交通計画協会とともに発足した公共交通研究会では、駅や街の中でのバリアフリー空間について広範囲な視点からさまざまな意見交換を行っています。

このほか、平成22年度は以下のようなイベントを企画しました。



Movie in the Dark は、視覚障がい者の映画鑑賞について考えるためのイベントです。来場者には、UDラボを中心とするメンバーが、独自に作成した音声ガイドを体験してもらいました。映画代から1円を集め、年100本の映画に音声ガイドをつける“1 Yen Moviemment”の実現性について、上映後にさまざまなステークホルダーを交えて討論しました。

KEIOフットサルアドベンチャー 2010では、視覚障がい者と健常者があたりまえに混ざり合う環境を作り出し、みんなが楽しむ場を創発することに挑戦しました。日本ブラインドサッカー協会、体育研究所、学生有志と協力し、イベントを開催し、身体知と交流、学生や地域住民への認知拡大と調査を行ないました。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

